

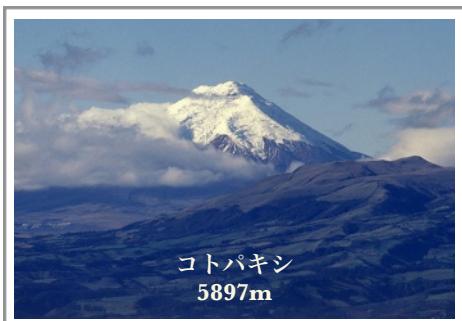
PROGRAM NOTE

「アンデスの声」が放送開始した東京オリンピックの年1964年。

「アンデスの声」が放送開始した東京オリンピックの年1964年に、早稲田大学第二次エクアドル・アンデス遠征隊が船でエクアドルに到着。氷と岩に閉ざされたエル・アルタール山のオビスピオ峰（5,319米）の初登頂に成功しました。



そして30年後、ふたたびアンデスに舞いもどってきた当時の隊員だった小林伸吉さんは、世界最高のアンデス活火山コトパキシー（5,897米）の単独登頂に挑んだのです。



30年後の登山日誌

1994年11月16日午前2時。満天の星空のもと、海拔4,800米にある山小屋を出発。案内人の先導で底知れぬクレバス

（雪渓の割れ目）を避けながら一歩、一歩足もとを踏みしめてすすみ、夜が白むと同時に山頂に立つことができました。その日は、朝からよく晴れ上がり、遠くの山も近くの山も、すべて頭に白雪をかぶっているのが見え、昔、登った懐かしい山も眺めることができ、あんな幸せなことはありませんでした。頂上では、案内人の方とだけあって、ただ一言

「グラシアス（ありがとう）」。そのとき流した感激の涙が記念に雪のなかに埋まっていることでしょう。



風騒三荘の由来

静岡県浜松市的小林伸吉さん一家を紹介します。自宅は武家屋敷のような門構えですが、すべては小林さんのオリジナル・アイディア建築です。まず、家の名前が木立をふきぬけてサワサワと騒ぐ風の音で風騒。住人は、女性が母と娘ふたりで3の数字。男性が父、息子とオスの愛犬を入れるとこれも3。しかも、3度目の転居でマイホームの夢がかなった、というわけで、登山家にふさわしい山荘の語呂合わせで、風騒三荘（ふうさいさんそう）。どこにもない何と風流な名前ではありませんか。

家のなかに入ると、すぐに目につくのが、応接広間の中央にある長さ420x90センチという横長のテーブルです。厚さが12センチもあるテンと控えたテーブルは、静岡県と長野県の県境で切り出された400年前のトチの木。さまざまなかたちの木目を手でふれながら歴史の重みを感じます。テーブルを囲むと、家族も客もおなじ屋根の下でひとつになります。食べて、飲んで、おしゃべりをしてなごやかに楽しむ団欒の場。子供たちには、本やノートをひろげて宿題をしたり、絵を描いたりゲームをしたりして遊ぶ場ともなります。

そこから二階を見上げると、障子の向こうに子供のための個室が3部屋。基本的には、階下だけで夫婦がすべてを過ごせるように設計されています。畳の間で火を楽しむために囲炉裏も切ったのですが、4年前に待望の薪ストーブをスエーデンから輸入しました。家全体をあたためてくれ身体にもやさしい暖気がお気に入りですが、その分、年中薪集めと薪割りに追われるのが大変だそうです。

長男の正季君は、ヨット・マン。数多くの国際レースに出場しながら後輩の育成やヨットに関する万能コンサルタントとして主に海外で活躍しています。長女の左和さんは、理学博士でこのほど最終司法試験に合格して天下晴れての女性弁護士。貴重な存在だけに就職口もすぐに決まりました。二女の万記さんは、大学院を卒業した春にお父さんとエクアドル・アンデス・カヤンベ山（5790m）登頂後、農水省入省本庁に勤めています。料理研究家の母親紀子さんも、大学時代には登山部にいて日本の山々やエクアドル・アンデスにも登ったことがあります。

なお、小林家の愛用短波受信機はソニーICF-7600DA。



下山も気を
ゆるしてはな
らないので、
案内人とザイ
ル（登山用
ロープ）を組
んで慎重に歩
をすすめまし
た。

た。登るときには星明かりでよく見えなかったク
レバスが左右に大きく口をひらいており、こんなと
ころをよくも来たものだと感心したり、さすが、
アンデスの雪山だ、とそれなりに感激してしまいました。山の上からもキトの街をはるかに見下ろす
ことができましたが、逆に都会の雑踏の中から雪山を眺めることができるのも、エクアドルならでは
と思いました。(La Voz No.156 より転載)

その後、小林さんは山登りだけではなく、韓
国、蒙古、チベットなどの秘境をたずね、2008年
にはアメリカ大陸に飛び、シカゴ、ニューヨーク、
ボストンの各都市をめぐり、とくにシカゴから
ニューヨークまでレトロな列車の旅を経験しま
した。2009年の南米のギアナ高原、天使の滝、アマ
ゾン川下りなど、まだまだグローバルな未知への
挑戦はつづき
そうです。小林
さん
の
早
稲
田
大
学
「
山
の
会
」幹事長時
代の言葉です。



「・・・加藤文太郎のことばに『最後に峰頭を攻略するものは、個人としても単独登攀に立派な働きを期待しうるクライマー（登山者）でなければならぬ』とある。私はこれを、人間のもつものの中で自分自身に基礎をおかない力ほど不安定で、はかないものはない、と解釈した。それでいて、その個人の個性が全体に含



まれることを、私は願っている・・・」。自分に甘
えをゆるさない人生のクライマーである小林さんの
次のチャレンジを期待しましょう。

そこには何かが隠されている。

行け、そして見つけ出せ。

早く行って、山々の後ろを捜すのだ。

何かが山の向こうでゆくえ不明になっている。

そして、あなたを待っている。

行け！

[キップリング]

日本語放送担当

尾崎一夫



『サタデー・トーク』

きき手 尾崎一夫

毎週土曜日放送

2月 5日	南米探訪（ベネズエラ篇）小林伸吉
2月12日	愛：バレンタインに寄せて
2月19日	愛：とかすか クラーク桂子
2月26日	愛：スペシャルな子供たち 木藤和子

放送後の番組は、ホームページ (<http://japanese.hcjb.org>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』の
リンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

放送時間：日本時間午前7時半～8時

（米国アリゾナ制作／オーストラリア送信）

放送周波数： 15525kHz 19mb式）

HCJB 日本語放送

新住所：HCJB（日本語放送）1517 N WILMOT RD #298 TUCSON AZ 85712 USA